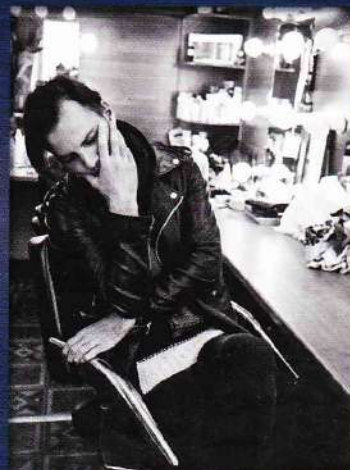


自らを「詩人」と定義する

鬼才クルレンツィス、
音楽と愛について語るThe great talent conductor Teodor Currentzis
speaks about music and love

東方正教会の熱心な信者でもあるクルレンツィスは、音楽の「司祭」であるのかも知れない。

いま話題のギリシア出身の指揮者テオドル・クルレンツィス。ロシアのサンクトペテルブルクでイリヤ・ムーシンやユーリ・テミルカーノフに学び、ノヴォシビルスク国立歌劇場を経て、現在はペルミ国立オペラ・バレエ劇場の芸術監督を務める。アンサンブル・ムジカエテルナおよびムジカエテルナ室内合唱団を創設したことで知られるクルレンツィスをペルミに訪ねた。

取材・文＝中東生

Text: Shinshu Naka
Photo: Dmitri Dubinsky

ペルミを音楽の首都に

ロシアのペルミで開催される第10回デアギレフ・フェスティヴァルも中盤に差しかかった6月23日、突然降り出した雨に、雫を滴らせてオルガンホールの応接間に現れたテオドル・クルレンツィスは、ふだん発散しているオーラをお行儀良く仕舞ったような素顔で、穏やかに歓迎してくれた。

中(以下N) 「ここペルミから、とてつもなく大きな新潮流の波が世界をのみ込んでいくようなエネルギーを感じますが、これが5年前にペルミ・オペラ劇場と契約した時にやりたかったことなのですね。クルレンツィス(以下C) 音楽に大切なのは「今、生きている」音楽として生かしてあげることなのです。過去に生まれた音楽を、その後の時代の影響をふまえて、発展させたものとして演奏することによ

って、現代に再現されることの意義を与えられるのです。大切なのは、常にリノヴェイションしていくことです。実は音楽界には真実が少ないのです。言っていることとやっていることが違うような、真実を含まない音楽は聴衆には伝わってしまい、つまらないものになってしまいます。そのような音楽界を改革するには、古い体制を破壊しなければなりません。しかし、ペルミには既存のシステムがなかったため、破壊せずに求めている方向で音楽をつくっていくことが出来ました。

N 5年の契約を、さらに5年延ばすサインをしたばかりですが、次の5年は何を目標にしていますか。

C 改革の基盤は、この5年ででき上がったので、次の5年は質をより高めていくことです。現在の音楽界には、僕のような考えを持っている音楽家が意外に多くいます。彼らをペルミに招いて、どんどん改革を進め、ペルミを音楽の首都にしたいと思っています。このアイディアは日本にも有効だと思います。東京、大阪に集中するのではなく、無名の町を音楽によって興していくのです。信念とヴァイタリティを持つた、しかるべき人間を立てて……西洋はもう「過去を展示する美術館」のように存在するのみで、これからはアジアです。日本には素晴らしいホールがあり、優れた演奏家、オーケストラも存在します。でも、西洋の真似をしてはダメです。



ピットの中のクルレンツィス

独自の文化に根を下ろした独自の音楽を創り出していかなければなりません。

可能性に賭ける自由さが必要

N 今回のヴェルディ《椿姫》もやはり斬新ながら自然なアプローチのヴェルディで、ロックのようなビートが感じられる部分すらありましたが、ハリウッド・スターのポートルートも撮るウイリアム・ウィルソンの演出に合わせたのですか。

C 以前彼が僕の家に来た時、メシアンを聴かせてイメージを語ってもらいました。その時に、彼の表現が僕の求めている音楽と合うことがわかったので、



「エネルギーがなくなると『クラシック』になってしまいます(笑)」

愛を原動力とするその音楽は、フレキシブルな可能性に満ちている

協働することになりました。僕の現時点での『椿姫』の演奏は、別の演出家だったとしてもこのアプローチです。

N 同じく、今回のアルフレードにしても、チューリヒ劇場での、ヴェルディ《マクベス》でマルコムを歌っていたアイラム・ヘルナンデスを急遽スカウトしたそうですね。確かにゴージャスなマルコムでしたが、そのような冒険とも言える選択をする際に、成功するという自信はどこからくるのですか。

C 自信というより、可能性に賭ける自由が必要なのではないでしょうか。人生はドラマ・ジョコーズ(おどけたドラマ)です。僕はこれからここでリハーサルがありますが、あなたと先港に行つて、オーストラリアに飛び、そこでインタヴューを続けるといふ選択肢もある。時差はあるかもしれないけれど、そこでは冷えたドリンクを楽しめるとか、そういう可能性にフレキシブルでいたい。

音楽はミッション

N フェスティヴァル期間中もご自身のコンサートやリハーサルの他、複数のコンサートやフェスティヴァルのイメージジ香水のプレゼンテーション・イヴェントにも顔を出し、それ以外にこうやってインタヴューを受けたり、次の企画を練ったりと、そのエネルギーはどこから来るのですか。

C 愛からです。僕は音楽を愛しているし、人を愛したら、飽きることなくエネルギーを注ぐでしょ。ロックはエネルギーがあるし、エネルギーがなくなると「クラシック」になつちゃうから(笑)。ちな

みにユーモアは大切です。ユーモアのない人間は決して信用してはなりません(笑)。

N 「音楽はミッションだ」と仰いますが、何を達成するためのミッションですか。

C 二つのポイントがあります。一つは僕の音楽によって聴衆を幸せにすること。もう一つは、それによって皆さんがより良い人間になること、そして、自分をより良く知れるように、自分自身と対話する機会を与えられることです。

N 「より良い人間」というのは、他人に優しく出来るようになる、などの意味ですか。

C 周りの人により良く接するようになること、それは、たとえば、まずはあなたの夫に優しくすること、一人ひとりが周りにより良く接することが、世界を変えていく力になります。

N それは今の残酷な世界状況も示唆していますか。

C キリストは「敵を兄弟のように愛せ」と言っています。実行は難しいですが、この世は次の世への筋力トレーニングのようなものです。

N 貴方との度重なる共演で、東方正教会の洗礼を受けた歌手もいますね。それも「ミッション」ですか。

C 神に近づく道を切り開くのは、どのような道程にしても有効なことです。僕の音楽がその助けになれば光榮です。

クルレンツィスは自分を「詩人」と何度も定義していた。ダイレクトな問答をかわす思考回路は詩人的かもしれないが、哲学者と話しているような錯覚を与えるのはギリシアの遺伝子だろうか。